



配達地域指定

高松市議会議員 富野和憲 市政レポート

令和3年(2021年)1月発行 第14号

発行元:高松市議会議員 富野和憲
〒761-8043 高松市中間町598番地1
☎087-885-0370 / 📠087-816-8231
✉kaz.tomino@gmail.com
🌐http://tomino.online/



日頃からお世話になり、誠にありがとうございます。
今号では令和2年9月・12月定例会での一般質問についてご報告します。
本年も地域を歩く中で、お声をお聴きし、その『地域の声』を『自分の力』に
して頑張りますので、引き続きのご指導をよろしくお願ひいたします。

高松市議会議員 富野 和憲

令和2年9月・12月定例会 質問抜粋

01

シトラスリボンプロジェクトに賛同し、新型コロナウイルス感染者等に対する偏見や差別のないやさしいまちづくりを行う考え

【市民政策局長の答弁】

シトラスリボンプロジェクトは新型コロナウイルス感染者等に対する差別や偏見等を防止する上で大変有意義な取り組みだと思ふ。

これまで新型コロナウイルス感染症に関して、正確な情報に基づき、人権に配慮した冷静な行動をとるような様々な広報媒体を活用し、周知啓発に取り組んでいるほか、香川県や市町などと連携した「NOコロナハラスメント」啓発キャンペーンを実施し、新型コロナウイルス感染症に起因する差別や誹謗・中傷を行わないよう呼び掛けている。

このような事から、現在のところ、シトラスリボンプロジェクトを取り組む考えはないが、今後とも県などとも連携を図りながら、更なる周知啓発に努め、差別や誹謗・中傷のない、やさしいまちづくりに取り組む。

シトラスリボンプロジェクト

コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛県の有志がつくったプロジェクト。愛媛特産の柑橘にちなみ、シトラス色のリボンなどを身につけ、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動。リボンの3つの輪は、地域と家庭と職場(もしくは学校)。



02

夜間中学の設置と不登校特例校の設置を複合的に検討する考え

【教育長の答弁】

高松市では、不登校児童生徒の多様な学びの場として、2か所の教育支援センターの運営のほか、短期個別指導を行うアシスト教室や「ICTを活用した学習支援システム」に加え、令和2年(2020年)9月からビデオ会議システムを活用したオンラインによる支援を実施しているほか、個別最適化された学びの実現をめざし、12月1日には「AIドリル」を導入した。

学校復帰をめざす多様な学びの場を充実させる事を第一に考えている事から、不登校特例校の複合的な設置は考えていないが、県教育委員会で検討が進められている「学び直しの場」である夜間中学については協議に応じていきたい。

夜間中学

公立中学校の夜間学級。戦後混乱期に義務教育を修了できなかった人、本国で義務教育を修了せずに日本で生活を始める事になった外国籍の人、形としては中学校を卒業していても不登校などの理由で十分に通う事ができなかった人たちの「学び直しの場」としての役割も期待されている。

不登校特例校

不登校児童生徒等の実態に配慮した特別の教育課程を編成する必要があると認められる場合、特定の学校において教育課程の基準によらずに特別の教育課程を編成する事ができる学校で、平成17年(2005年)7月から文部科学大臣の指定により行う事が可能となっている。全国で公立学校7校、私立学校9校、合計16校が設置されている。

【市民政策局長の答弁】

「高松市ユニバーサルデザイン基本指針」や「ユニバーサルデザイン推進マニュアル」等に基づき、文字の大きさや字体、間隔、色使いに配慮するなど、読み取りやすい情報の提供に努めている。

引き続き、印刷物やホームページ、案内表示板等にUDフォントを積極的に活用するとともに、研修等により職員のUDフォント活用に対する意識の向上を図り、誰もが必要な情報を入手し、適切なサービスを受ける事ができるよう、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進していきたい。

【教育長の答弁】

教育委員会としては、今年度からUDフォントを導入したところであり、学力向上などの導入効果は把握できていないが、今後、より一層UDフォントの活用が図られるよう推奨していきたい。

UDフォント

誰もが読みやすいように開発された字体。

UDフォント **令和** ゴシック体 **令和** 明朝体 **令和**

【市長の答弁】

「ユニバーサルデザイン推進マニュアル」で「情報の対象者を意識して、より分かりやすくし、相手の状況に合わせた柔軟な対応を行う」との方針を示しており、これは「やさしい日本語」の考え方と共通する。

この推進マニュアルに基づき、「高松市創造都市推進懇談会」からの提案も踏まえ、市職員に対して「やさしい日本語研修会」を開催してきた。

今後も「やさしい日本語」や「ユニバーサルデザイン」の活用について、研修等により職員の意識の向上を図りながら、様々な情報を分かりやすく市民にお伝えできるよう鋭意取り組んでいきたい。

やさしい日本語

敬語を使わない例

「受付を10時までに済ませて頂きますと幸いです。」

↓

「10時までに受付に来てください。」

遠まわしな表現を使わない例

「おたばこをご遠慮ください。」

↓

「たばこは吸わないでください」

※小学校2・3年生で習う簡単な言葉を使う事、カタカナ外来語はできるだけ使わない事、あいまいな表現は避ける事、二重否定は避ける事などの12のポイントがある。

【市長の答弁】

住民に最も身近な自主的・自立的な基礎自治体として、市民主体のまちづくりを推進していくために、引き続き、市職員の政策形成能力の向上に努めるとともに、地方に対する規制緩和や地方税財源の充実確保について全国市長会等を通じて国に要望するなどにより、地域本位の分権型社会の実現をめざしたい。

その他の質問項目：特別定額給付金給付事務と今後の給付事務、市道五番町西宝線、LGBTに対する遺族支援

ご意見・ご要望をお寄せください。

富野携帯 090-3461-3219

LINEはこちら



富野和憲プロフィール

昭和46年(1971年)12月29日 高松市中間町生まれ(49歳)
 檀紙幼~檀紙小~香東中~大手前高松高~立命館大学法学部
 平成7年(1995年) 高松市役所入庁(納税課・市民課・人事課)
 平成19年(2007年) 高松市役所退職し、国会議員秘書に
 平成23年(2011年) 高松市議会議員選挙に立候補(2,165票)、惜敗
 平成27年(2015年) 高松市議会議員選挙に立候補(3,239票)、初当選
 平成31年(2019年) 高松市議会議員選挙に立候補(4,381票)、二期目
 「学校トイレの洋式化を推進する地方議員ネットワーク」参加議員
 日本旗章学協会、日本唐揚協会 各会員

